

平成30年度 学校自己評価システムシート

(埼玉県立熊谷女子高等学校)

平成30年度第2回学校評議員会資料

目指す学校像	1 自主自律の精神と豊かな人格を有し、次世代の社会をリードする心身ともに健康な生徒を育成する。 2 地域に信頼される伝統ある進学校として、生徒の第一志望の進路を実現させる。
重点目標	1 豊かな人間性と社会性を育む教育を展開し、高い志を持った次世代の社会を担う女性を育成する。 2 SSHの成果や骨太リーダー育成事業などの取組を活かし、質の高い授業を行い、学力を向上させる。 3 きめ細かな進路指導や学習指導に取り組み、生徒一人一人の第一志望の進路を実現させる。 4 伝統ある本校の生徒としてふさわしい生活習慣を身に付けた、自らを律し行動できる生徒を育成することにより、地域に信頼される学校づくりを行う。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割以下)

出席者
学校関係者 8名
生徒 3名

学校自己評価					学校関係者評価		
平成30年度目標					平成30年度評価(2月7日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的な方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	齎	次年度の課題と改善策
1	◇生徒全体に学習面はもとより、部活動、委員会、生徒会活動、学校行事に意欲的に取り組む基盤がある。地域との連携事業の積極的な推進や行事、部活動、ボランティア活動等への関わりをとおして、高い志を持った次世代のリーダーとしての素養を高める必要がある。	次世代のリーダーとしての素養向上	①地域との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の夏休み学習教室指導等への協力 ・小学校の学習支援、水泳教室等への協力 ・保育・福祉施設等でのボランティア ②国際交流の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・グローバルリーダー育成事業派遣 ・NZ姉妹校交流受け入れ ③学校行事・委員会活動・部活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭、体育祭等の委員会活動 ・部活動をとおした志の育成、リーダーとしての素養の向上 	①地域との連携事業参加生徒が意識を高めることができたか。 ②国際交流事業に参加した生徒のリーダーとしての素養が高まり、全校生徒の意識向上が図れたか。 ③生徒が主体的に取り組み、学校行事や委員会活動を運営できたか。 ③関東大会以上の大会等に10以上の部活動が出場・出品できたか。	年間をとおして、次世代のリーダーとしての素養を高める取組を実施した。 ①地域との連携事業参加による生徒の意識向上 <ul style="list-style-type: none"> ・中学校学習教室協力 14名 ・小学校学習支援及び水泳教室 116名 ・保育・福祉施設ボランティア 186名 ②国際交流の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・グローバルリーダー育成事業に1名参加等、全校報告会で成果を全生徒で共有 ・NZ姉妹校生徒11名を7日間受け入れ、本校生徒及び小学校とも交流を実施 ③学校行事・委員会活動・部活動をとおした志の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭や体育祭の運営をとおして、文化委員や体育委員のリーダーとしての素養を高めた。 ・部活動 関東大会以上 8(全国5) 	A	・高い評価を得ている地域連携事業やボランティア活動を継続し、生徒の志を育成する。 ・NZ姉妹校交流派遣等により生徒のリーダーとしての視野を広げる。 ・学校行事・委員会・部活動等をとおして主体性や積極性を養い、リーダーとしての素養をさらに高める。
2	◇SSHの成果や骨太リーダー育成事業などの取組を活かし、学校を活性化する取組につなげていくために、これからの時代に求められる思考力・判断力・表現力等の向上に向けた授業改善を行う必要がある。	授業改善の推進	①研修会や公開授業による新学習指導要領に対応する授業改善 ②骨太リーダー育成事業等の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・骨太・探究プログラムへの参加生徒の経験や知識などの全校への波及 ③探究活動の授業等をとおした思考力・判断力・表現力等の育成	①外部の教員研修、先進校視察等に参加し、研修会を行い、校内における授業の工夫・改善ができたか。 ②参加生徒の意識向上と報告会による全校生徒の意識向上が図れたか。 ③授業アンケートで意欲的に授業に取り組む生徒の割合が90%以上あったか。	授業改善に着実に取り組んだ。 ①教員研修、先進校視察等 <ul style="list-style-type: none"> ・熊女の将来を考える研修会を3回実施。 ・未来学びシンポジウム5名参加。先進校視察(都立三田高校)4名参加。予備校の教員研修も参加。 ・教員相互の授業見学期間(2週間)2回実施。 ②骨太リーダー育成事業等の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・各探究プログラムをとおしてのべ28名の生徒が参加、報告会を実施し全校生徒の意識を高めた。 ③思考力・判断力・表現力の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート(12月)で意欲的に授業に取り組んだ生徒の割合=学校全体87.5%、人文科学探究85.2% ・人文科学探究の公開授業を実施する(2/14)。 	B	・思考力・判断力・表現力の向上に向けた授業改善に引き続き取り組む。 ・総合的な探求の時間や人文科学探究等の探究科目の充実を図る。 ・新学習指導要領に対応する教育課程を編成する。
3	◇大学進学実績では一定の成果をあげているが、さらなる向上が期待されている。生徒一人一人の第一志望の実現に向けて、大学入試改革に対応した進路指導、学習指導の方法の工夫改善を行う必要がある。	進学実績の向上	①きめ細かい進路指導や補習の実施 ②大学入試改革等への対応策の検討 ③進路指導に係る最新の情報収集及び情報共有	①現役大学合格実績目標値 国公立 60名、早慶上理 ICU 30名、G-MARCH 100名 ②大学入試改革等への対応策の検討ができたか。 ③大学入試改革関連の研修会等に参加し、情報共有しながら指導に活かされたか。	進路実現に向けて主体的に取り組む生徒が増えた。 ①きめ細かい進路指導 <ul style="list-style-type: none"> ・考査、実力テスト後など通年の個人面談(全年学) ・筑波大、お茶の水女子大への公募制推薦等での合格(大学合格実績は3月末に集計予定) ②大学入試改革等への対応策の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・GTECを円滑に実施した。 ③大学入試改革関連研修会職員参加状況 <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部、3学年を中心に40以上の外部受験研究会に参加し、情報を共有した。 	A	・生徒一人一人の主体的な取組を支援し、第一志望を実現させる。 ・進路指導室の効果的な活用方法を工夫する。 ・大学入試改革等への対応策を具体化する。
4	◇自らを律した行動のできる生徒の育成について評価をいただいている。一方で、個々の生徒に対するきめ細かな支援が必要である。 ◇地域の伝統ある女子高としての姿を示すため、広報活動の一層の充実を図る。	生徒指導の充実	①整容指導と挨拶励行の組織的な啓蒙指導 ②専門機関と継続的に連携したきめ細かい個別の指導	①全教職員、PTAの協力による組織的な指導ができたか。 ②校内支援委員会を中心に個別の生徒の課題解決に向けた支援ができたか。	学校全体の共通理解のもとに個別の生徒支援を年間をとおして行った。 ①身だしなみ指導、生活委員会及びPTAによる挨拶運動を計画的かつ組織的に実施した。 ②担任、学年、養護教諭など関係者の連携が昨年度よりも円滑になり、学校生活の改善が見られる生徒が多くなっている。	A	・身だしなみ指導・挨拶運動を継続し、品格ある熊女生を育成する。 ・組織的な個別の支援を継続する。
		広報活動の工夫改善	①学校説明会や学校見学会、中学校や塾等主催の説明会の活用 ②学校ホームページの一層の充実	①本校の魅力を十分に発信し、入試倍率に反映できたか。 ②学校ホームページへのアクセス数が昨年以上に増えたか。	広報活動を工夫し本校の魅力を発信した。 ①本校の魅力を発信 <ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会、見学会で本校生徒による体験報告は、参加中学生のアンケートで高評価であった。 ・新たな試みとして「熊女の強みを伝える動画」を作成し、ホームページに公開した。 ②学校ホームページのアクセス数 1日平均約1,200(昨年:1日平均約1,800)	B	・熊女の良さをさらに情報発信していく。 ・今後もホームページの更新を効果的に行う。
					実施日	平成31年2月12日	
					学校関係者からの意見・要望・評価等		
					・熊女生による学習支援は効果があり、保護者にも大変評判が良い。継続をお願いしたい。 ・学校行事では生徒同士のチームワークや絆が深まり、熊女生のリーダー性が育っている。 ・部活動をとおして集中力が鍛えられ、勉強にも生かされている。 ・生徒それぞれの個性を生かしながら何事にも全力で取り組める環境があることが熊女の強みとなっている。 ・文化祭は文化について学び伝える場も必要である。		
					・生徒は真剣に授業に取り組んでいる様子が見られる。講義型の授業については工夫改善をしていくとよりよい。 ・時間をかけて幅広く考えたり深く考えたりする活動を取り入れると将来役に立つ。 ・探究活動に積極的に取り組む姿勢が熊女生の学習面の強みである。 ・骨太リーダー育成事業では学力向上はもとより人間的な魅力や力を育てているのがわかる。		
					・進路指導をきめ細かく行っている。 ・進学実績を中学校にもPRしてもらいたい。 ・補習や個人面談など学習面でのサポートが手厚く、恵まれた学習環境を活かし、主体的に勉強することで向上心が育つ。		
					・研修会や関係する教科での指導など、SNS関係の指導について中学校でも参考にしたい。 ・学校案内は伝統とこの先を見据えた挑戦を感じ、すばらしい。 ・ホームページでの「熊女の強み」の動画配信など、地域等へのアピールになっている。 ・地元である熊谷の伝統文化について生徒にも知ってもらいたい。 ・地域に密着した熊女の強みを作っていくてほしい。		